

富山県
魚津市埋蔵文化財分布調査報告2

—下中島—

2015年
魚津市教育委員会

序

山と海、そして川、大自然に恵まれた富山県東部にある魚津市は、大部分が片貝川により形成された扇状地上に位置しています。

県指定の史跡である縄文時代早期の桜峠遺跡や越中の戦国時代に欠かすことのできない松倉城跡をはじめ、市内の各所には、先史の遺跡が数多く残されています。

過去の人々の痕跡がそのまま地中に残されている遺跡は、今を生きる私たちが、次の世代へと受け継いでいかなければならぬ大切な文化財です。

この大切な埋蔵文化財を保護するため、本市では平成25年度より、遺跡の詳細分布調査を実施することになり、本年は2年目にあたります。遺跡の分布調査を実施し、その詳細を確認することは、遺跡内における開発との調整や、今後の遺跡の保存・活用において欠かすことのできない重要なことです。

この報告書が、地域の歴史を知るための一つの手段として多くの人々に活用され、地域の歴史研究と埋蔵文化財保護に対する理解に役立てば幸いです。

おわりに、調査の実施にあたり、地区の方々をはじめ関係者の方々に多大なご協力とご理解をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

平成27年3月

魚津市教育委員会

教育長 長島 潔

例　　言

- 1 本書は魚津市教育委員会が国庫補助を受けて実施している、市内遺跡詳細分布調査の調査報告書である。
- 2 調査は、魚津市教育委員会が主体となり実施した。
- 3 本書は、魚津市下中島地区内の分布調査結果の報告書である。
- 4 調査事務局は、魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課におき、文化係主任高嶋真弓、的場茂見が調査事務を担当し、生涯学習・スポーツ課長南塙智樹が総括した。現地調査、資料の整理、本書の執筆と編集は、的場が行った。

調査担当者　魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課文化係　主任　的場茂見
調査補助員　石坂正男、小川勝広、小黒圭介、澤崎保與、松本明夫
整理作業員　安宅知春
- 5 現地調査にあたって、下中島地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。
- 6 採集遺物及び記録資料は、魚津市教育委員会が保管している。

目 次

I 位置と環境	1
II 調査の経緯	2
III 調査の概要	4
(1) 遺跡の概要	4
(2) 主な採集遺物	9
IV まとめ	10

挿 図 目 次

第1図 平成26年度調査対象範囲（縮尺1/30,000）	3
第2図 分布調査結果概要図（縮尺1/15,000）	5
第3図 遺物実測図（縮尺1/3）	9

表 目 次

第1表 調査対象範囲における周知の埋蔵文化財一覧	2
--------------------------------	---

図 版 目 次

図版1 作業風景	
図版2 作業風景	
図版3 遺物写真	

I 位置と環境

魚津市は、富山平野の北東部に位置し、面積約200km²、人口4万3千を数える。市内には北から順に、布施川、片貝川、角川、早月川の主要な4河川が流れている。北に隣接する黒部市との境をなす布施川、毛勝山(標高2,415m)や僧ヶ岳(標高1,855m)を源流とする片貝川、大平山周辺に源流をもつ角川、南の滑川市との境をなす早月川が市域を貫流し、日本海へと注いでいる。片貝川や早月川は、源流から海へ至るまでの高度差に対し、流路延長が短いことから県内でも有数の急流河川として知られている。

魚津市の地形は、立山連峰の一部である毛勝山や僧ヶ岳などの山岳地帯とその前山をなす丘陵地帯、平野部の扇状地で大部分が構成されている。山地から流れる急流河川は深い谷を形成しながら多くの土砂を運び、山地を抜けたところで扇状地を形成する。市の平野部のうち、半分以上は片貝川の扇状地である。さらに扇状地上を流れる河川の両側には河岸段丘が顕著に発達し、数段の段丘面が見られる。現在、市内には119か所の遺跡が確認されており、山城・砦を除く遺跡の多くは、この河岸段丘の発達した洪積台地上や段丘が沖積地に埋没するあたりで確認することができる。

旧石器時代の遺跡は少なく、石垣平A遺跡と早月上野遺跡の2遺跡がある。石垣平A遺跡では、貝岩の石刀等が採集されている。早月上野遺跡ではナイフ形石器や搔器等の石器が出土している。

縄文時代の遺跡には、富山県で初めて押型文土器が出土した県指定史跡の桜峠遺跡がある。また環状集落であることが確認された早月上野遺跡や天神山式土器の標識遺跡である天神山遺跡のほか、佐伯遺跡、吉野遺跡、印田遺跡等多くの遺跡が確認され、大部分は縄文時代中期に属するものである。

弥生・古墳時代の遺跡は、縄文時代と異なり、確認されている数は少ない。北陸自動車道の建設に伴って、湯上B遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡であることが、印田遺跡では古墳時代中期の遺跡であることが判明している。このほか、佐伯遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居跡や方形周溝墓等が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡には、市内で10数か所の散布地が確認されている。このうち発掘調査が行われた主な遺跡には、多数の掘立柱建物が確認された佐伯遺跡、古代の瓦が出土し、寺院の存在が推定されている友道遺跡、石帶や製鉄関連の遺物が出土した仏田遺跡、仏田遺跡の南に位置する江口遺跡等がある。

中世の遺跡には、発掘調査で確認された吉野遺跡、佐伯遺跡、仏田遺跡、江口遺跡や山城、砦跡、城館等がある。

II 調査の経緯

これまで市内における遺跡の分布調査は、昭和48年度(1973)に魚津市が富山考古学会に委託して実施した調査がある。その調査結果は『魚津市埋蔵文化財遺跡分布調査報告書』として刊行された。その後、北陸自動車道の建設や大規模開発が魚津市郊外の洪積台地に向けられるようになり、遺跡の把握が急務となった。そのため、昭和57～59年度(1982～1984)に、今後、開発が進むと思われる範囲において遺跡の分布調査が実施され、『富山県魚津市 遺跡分布調査概要 I・II・III』が刊行された。平成5年(1993)に富山県埋蔵文化財センターが発行した『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』においては、市内で104か所の埋蔵文化財包蔵地が確認され、ある程度の遺跡の分布状況が明らかにされている。なお、現在は市内で119か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。

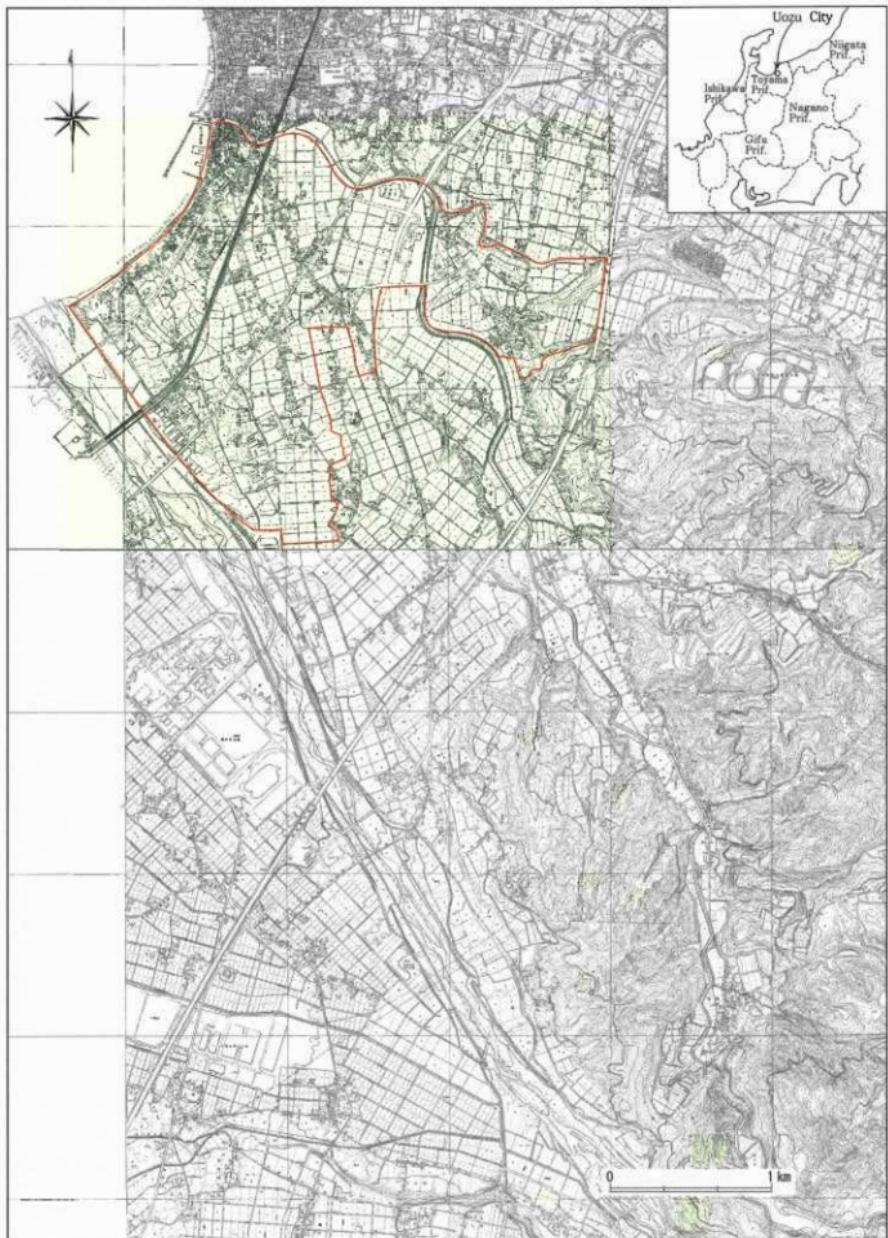
しかしながら、これまでの分布調査は、主に北陸自動車道や国道8号バイパス、林道等の道路建設や大規模開発等に先立っての調査であった。そのため、ここ数年、開発行為に伴って実施した分布調査で新たに遺跡が発見されることもあり、改めて体系的に市内の詳細分布調査を実施することとなった。

調査は、魚津市が国庫補助を受けて実施した。調査対象地内を踏査し、土器や石器等の遺物の採集や石造物の確認を行い、その地点を地図に記録して分布状況を把握した。さらに採集した遺物は、洗浄後、注記、実測等の記録作業を行った。

今年度の調査報告は下中島地区(住吉、三ヶ、川縁、慶野、宮津、田地方)とした。なお、調査対象範囲内に所在する周知の埋蔵文化財は第1表のとおりである。

第1表 調査対象範囲における周知の埋蔵文化財一覧

	遺跡名	所在地	種別	主な時代	現況
204041	住吉遺跡	住吉	散布地	縄文	河川
204046	宮津B遺跡	宮津	散布地	縄文	田
204047	宮津C遺跡	宮津	散布地	縄文	田・畑
204048	宮津A遺跡	宮津	散布地	縄文(中期)・室町	田
204104	慶野遺跡	慶野	散布地	縄文・中世	田



第1図 平成26年度調査対象範囲（縮尺1/30,000）

III 調査の概要

(1) 遺跡の概要

今回の調査対象地には合計5か所の遺跡が確認されている。下中島地区の大部分は早月川扇央から扇端にかけての扇状地である。これまで下中島地区を対象にした詳細分布調査は実施されておらず、未発見の遺跡があるのか遺跡が希薄な地域であるのか不明であった。今回の調査では、新規の遺跡の可能性を示す遺物の分布はみられなかつたが、現段階では遺跡の希薄な地域であると確認されたことは重要である。遺跡の位置図は第2図に示した。以下、遺跡ごとに概要を記す。

遺跡名 住吉遺跡(すみよしいせき)

遺跡番号204041 周知 所在地 魚津市住吉 種別 敷布地

現況 河川 時代 繩文

概要

角川の河口に近い沖積地に位置する。角川の改修工事が行われた際に、石刀が採集されている。出土状況や磨滅の痕跡等がほとんどみられないため、それほど大きな移動も考えられないことから、角川の河床の土砂に埋もれていた可能性が高いとされる。

遺跡名 宮津B遺跡(みやづBいせき)

遺跡番号204046 周知 所在地 魚津市宮津 種別 敷布地

現況 田 時代 繩文

概要

野町台地の角川に面した段丘崖上に位置する。縄文土器等の散布がみられたが、圃場整備や土取り等で大半が消滅している。なお、昭和46年(1971)の発見当時、既に圃場整備によって遺跡は破壊されていた。

遺跡名 宮津C遺跡(みやづCいせき)

遺跡番号204047 周知 所在地 魚津市宮津 種別 敷布地

現況 田・畠 時代 繩文

概要

角川右岸の舌状台地上に位置する。浅い谷を挟んで南側には宮津A遺跡がある。北陸自動車道建設に先立って行われた昭和47年(1972)の分布調査によって発見されたが、同年に行われた圃場整備によって破壊された。縄文土器や打製石器、磨製石器、砥石、石棒等が確認されている。

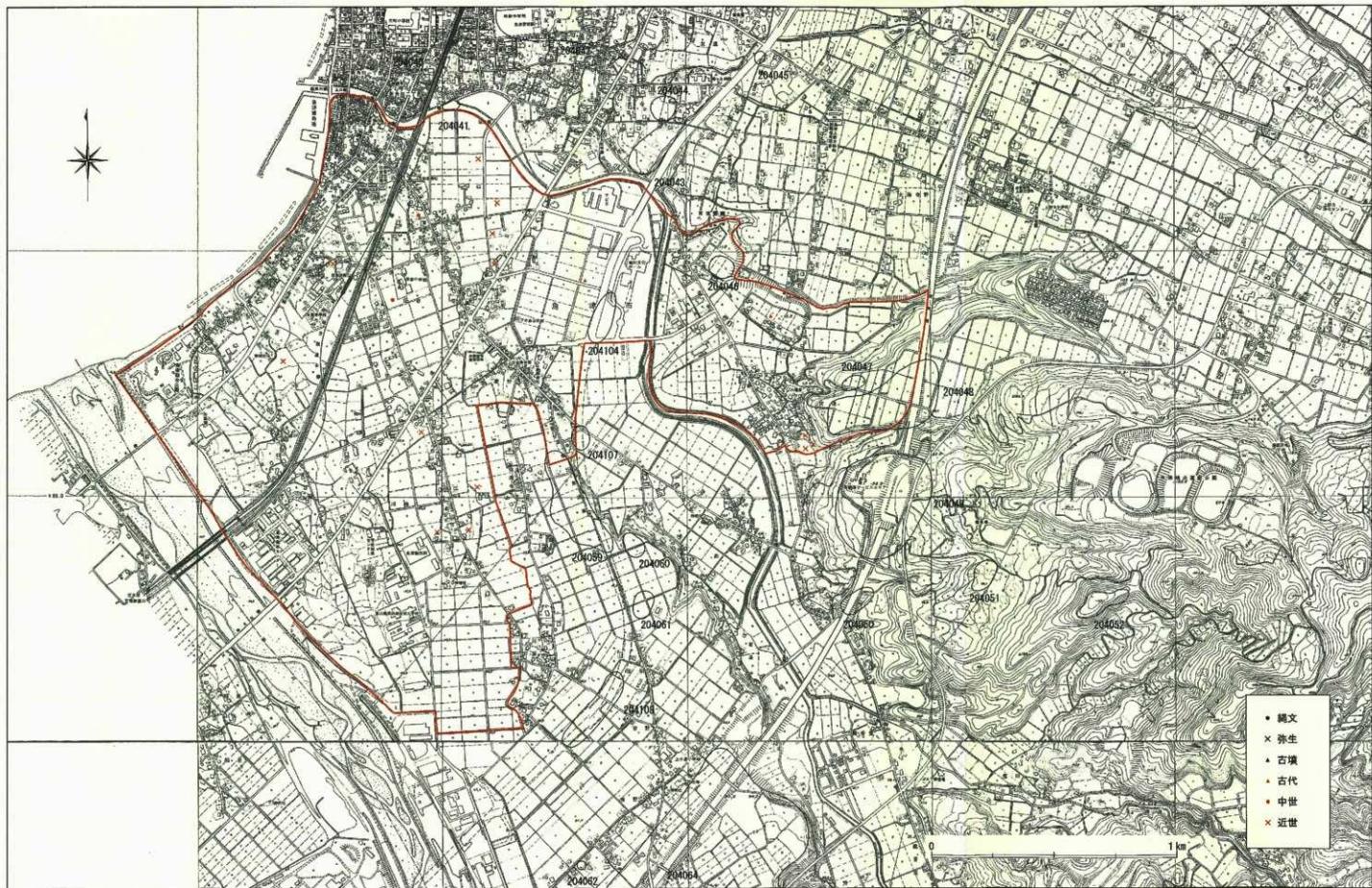
遺跡名 宮津A遺跡(みやづAいせき)

遺跡番号204048 周知 所在地 魚津市宮津 種別 敷布地

現況 田 時代 繩文(中期)・室町

概要

角川の右岸で、支流によって形成された舌状台地の先端に位置し、河口からはおよそ2.5km上流にある。昭和44年(1969)の分布調査によって発見され、昭和47年(1972)に圃場整備によつ



第2図 分布調査結果概要図 (縮尺1/15,000)

204040魚津城跡 204041住吉遺跡 204042友道遺跡 204043大光寺遺跡 204044大光寺B遺跡 204045友道神明社遺跡
 204046宮津B遺跡 204047宮津C遺跡 204048宮津A遺跡 204049湯上B遺跡 204050湯上C遺跡 204051湯上A遺跡
 204052室田砦 204059佐伯遺跡 204060山下遺跡 204061山下II遺跡 204062吉野中世墓 204064早月上野遺跡
 204104慶野遺跡 204107出遺跡 204108吉野遺跡

て破壊された。過去に縄文時代中期の土器や打製石斧、磨製石斧、石錐、砥石、石礫等の遺物が採集されている。昭和55年(1980)には北陸自動車道建設に伴う試掘調査が富山県教育委員会によって行われた。調査の結果、遺物や遺構等は確認されなかった。圃場整備に伴う旧地形の大規模な改変か遺跡の範囲外であった可能性が指摘されている。なお、富山県教育委員会から報告された『北陸自動車道遺跡調査報告』(1982年)にある宮津C遺跡とは、宮津A遺跡のことである。

遺跡名 慶野遺跡(けいのいせき)

遺跡番号204104 周知 在所地 魚津市佐伯 種別 敷布地

現況田 時代 縄文・中世

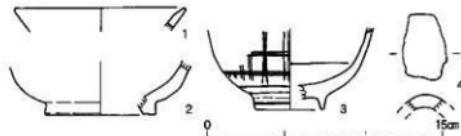
概要

角川の扇状地上に位置する。平成5年度(1993)の国道8号魚津の滑川バイパス建設予定に伴う分布調査によって発見された遺跡である。平成6年度(1994)に試掘調査が実施された。調査の結果、珠洲片や中世土師器皿等が確認されたものの、明確な遺構は確認されなかつたため、本調査は実施されていない。

(2) 主な採集遺物

今回の分布調査で採集された遺物は、17地点で約30点であった。下中島地区では、調査対象面積に対して採集した遺物は少なく、さらに遺物の多くは近世以降の陶磁器類であった。以下に、本報告に掲載した遺物についての概要を記述する。

1は土師器皿である。口径約11cmを測り、口縁部はやや厚手である。内外面とも磨滅し、調整等は不明である。2は近世陶器である。口縁部は欠損している。高台径は約7cmである。内外面とも釉を施す。外面底部付近には釉はなく、ロクロによる削り出しである。3は磁器である。口縁部は欠損している。高台径は約4.4cmである。外面に格子と直線、内面にも1条の装飾がみられる。また、内底面には、重ね焼きの痕跡が確認できる。高台底部は若干焼き歪みがみられ、底部先端にも重ね焼きの痕跡が確認できる。4は越中瀬戸の陶錐である。長さ約4.3cm、直径は破損のため不明である。内外面とも磨滅している。



第3図 遺物実測図 (縮尺1/3)

IV まとめ

今年度の調査対象地は、早月川から角川にかけての扇状地を中心とした下中島地区であった。下中島地区の南側にあたる上中島台地では、早月上野遺跡、佐伯遺跡、吉野遺跡等、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く確認されている。しかしながら、上中島台地北西側の下中島地区では、角川右岸の台地上に所在する宮津A遺跡・宮津B遺跡・宮津C遺跡と角川左岸の微高地上に所在する慶野遺跡、角川下流の住吉遺跡が周知の遺跡として確認されているのみであった。これまで下中島地区全体を対象とした分布調査は行われていなかったため、特に、扇状地上の遺跡の分布状況が本来の分布状況であるかどうかを確認することが重要であった。

調査対象地内の水田は圃場整備が実施されているところも多く、調査にあたっては水田や用水の法面等、様々な箇所に注意を払いながら行った。調査の結果、古代の須恵器、中世の土師器皿それぞれ1点ずつを確認したものを除くと、近世以降の遺物が散見される程度であった。遺物の分布状況は極めて希薄で、新規の遺跡は確認されなかった。下中島地区の大部分が早月川や角川の氾濫原であったため、遺跡の分布状況が希薄なところであったと考えられる。近世以降の遺物が散見されることについては、江戸時代以降、早月川を利用した用水開削による新田開発が始まり、下中島地区においても水田を営むことが可能となつたことで、新たな村が成立したことによると考えられる。

今年度は、埋蔵文化財分布調査の2年目である。次年度以降も調査を重ね、市内の遺跡の分布状況の確認や周知の遺跡の詳細把握に努めていきたい。

参考文献

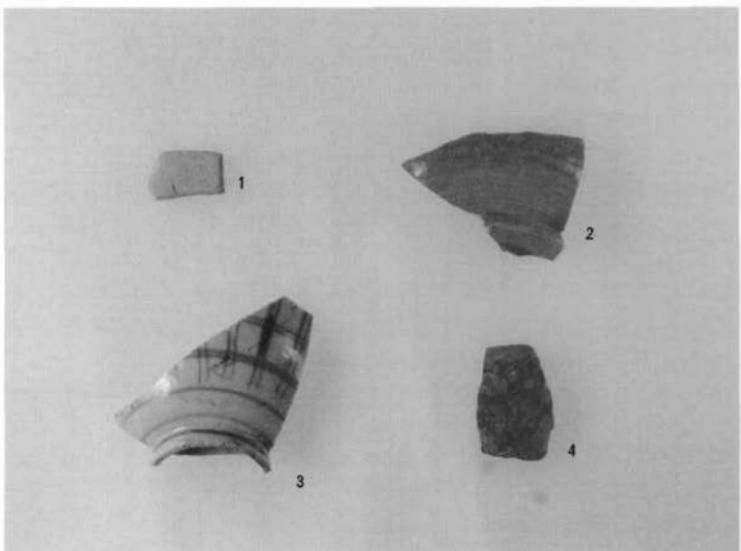
- 魚津市教育委員会 1973 『魚津市埋蔵文化財 遺跡分布調査報告書』
- 魚津市教育委員会 1981 『富山県魚津市 佐伯遺跡 県道拡張に伴う緊急調査報告』
- 魚津市教育委員会 1881 『富山県魚津市印田近世墓』
- 魚津市教育委員会 1982 『富山県魚津市早月上野遺跡』
- 魚津市教育委員会 1983 『富山県魚津市早月上野遺跡』
- 魚津市教育委員会 1983 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅰ』
- 魚津市教育委員会 1984 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅱ』
- 魚津市教育委員会 1985 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅲ』
- 魚津市教育委員会 1997 『富山県魚津市出遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 1997 『富山県魚津市山下Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 2000 『富山県魚津市吉野遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 2008 『富山県魚津市内遺跡試掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 2014 『富山県魚津市仏田遺跡発掘調査報告』
- 魚津市教育委員会 2014 『富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告1』
- 魚津市史編纂委員会 1968 『魚津市史 上巻』魚津市役所
- 魚津市史編纂委員会 2012 『図説 魚津の歴史』魚津市教育委員会
- (公財)富山県文化振興財團 2013 『仏田遺跡 発掘調査報告—入善黒部バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ—』
- (公財)富山県文化振興財團 2014 『江口遺跡 発掘調査報告—入善黒部バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ—』
- 富山県教育委員会 1982 『北陸自動車道遺跡調査報告』



作業風景



作業風景



遺物寫真

ふりがな	とやまけんうおづしまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさほうこくに						
書名	富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告2						
編集者名	的場茂晃						
編集機関	魚津市教育委員会						
所在地	〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL0765-23-1045						
発行機関	魚津市教育委員会						
所在地	〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL0765-23-1045						
発行年月日	西暦2015年3月24日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市内遺跡	富山県 魚津市 地内	市町村 16204	遺跡番号 —	° ' "	° ' "	—	—
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	—	—
市内遺跡	—	古 中 近 代 世 世	—	須恵器・土師器・越 中瀬戸焼・近世陶磁 器	—	—	—

富山県
魚津市埋蔵文化財分布調査報告 2

発行日 平成27年3月24日
編集・発行 魚津市教育委員会
〒937-0066
富山県魚津市北鬼江313-2
TEL (0765) 23-1045
印 刷 魚津印刷株式会社

